

舞鶴市市史編さん委員会現代部会（第1回） 議事要録

- 日 時：令和6年12月10日（火）10時30分～12時
- 場 所：Web会議
- 出席者：上杉部会長、児玉委員、杉岡委員、黒沢委員
- 舞鶴市：生涯学習部文化振興課（三方次長、松本担当課長、田中係長、石原、吉岡、廣瀬）、産業振興部舞鶴引揚記念館（嵯峨根館長）

《次第》

- 1 開会
- 2 挨拶
- 3 部会委員紹介
- 4 協議事項
 - (1)部会長の選出について
 - (2)市史刊行に向けたロードマップについて
 - (3)章立て等刊行物の構成について
 - (4)執筆者等の推薦について
 - (5)その他
 - ①執筆要項について
 - ②報酬等取扱基準について
 - ③その他
- 5 今後の予定等
- 6 閉会

《概要》

【協議事項】

- (1)部会長の選出について
 - ◎児玉委員から、部会長に上杉委員を推薦する旨の発言があり、全員の賛成により、部会長に上杉委員が選出された。
（副部会長については、委員増員後選出することとする。）
- (2)市史刊行に向けたロードマップについて
 - 〔事務局より、資料2・市史刊行に向けたロードマップについて説明。〕
 - ・分野編「引揚港」の現在の取組状況について、少し情報をいただきたい。
 - ・今年のはじめにこの市史の話を伺った。現在、引揚記念館の調査で携わる3人の委員と来年4月からもう1人加えて4人体制でと考えている。行政文書や市の広報など、まず典拠となる資料がどの程度あるのかについて調査をお願いし、この夏に一部確認した。皆が東京から行くことになるので、どうしても時間的に限られる部分もある。来年3月に調査に伺う予定にしており、その際にもう少し詰めていきたいと思う。その後、学生さんも含めて資料の整理などをお願いしないといけないと考えている。まだ、本当に取っ掛かりの段階である。当初の刊行予定は少し厳しいということで、この夏に少し延ばしてほしいと伝えた。通史編の記述とどういうふうに関わりを持たせるかが課題となり、委員の皆様にお話を伺いたいと思う。

- ・引揚港編の刊行時期が少し延びるだろうということであった。引揚港編は引揚港グループの先生方におまかせするとして、通史編の刊行スケジュールがR10年度を目途としてよいかということかと思う。おそらく引揚港編が出た後でないと通史で書けないと思う。また、資料の集まり具合がまだよくわかっていない時に、R10年度でいけるという確約は今できないが、事務局としてはどのように考えているのか。

●事務局／現代部会の通史編について、調査の中で見直しする必要が出てくるかもしれないが、現段階でR10年度の刊行スケジュールを目標にしていこうというご意見が多数でしたら、このスケジュールで進めていただきたいと思います。既に他の部会の中で刊行時期の見直しを、という声もあり、最終的に全体計画の中で、市史編さん委員会において見直したいと考えている。

- ・今のことを踏まえ、委員の皆さんはどうか。
- ・問題ない、現実的な対応と感じた。
- ・現時点ではこれを目指すということで異存はない。
- ・このスケジュールでよいと思う。
- ・現時点ではR10年度の刊行を目指すということ、ただし引揚港編を踏まえてその内容を反映させないといけないと思うので、引揚港編よりは後になることは確認しておきたい。なお、事務局からあったように全体の見直しの中で動く可能性はあるということによいか。
- ・了解した。

(3)章立て等刊行物の構成について

〔事務局より、資料3-1・舞鶴市史現代編の構成、資料3-2・綾部市史（続編）の概要、資料4・新修舞鶴市史執筆要項、資料6・京丹後市史本文編の抜粋について説明。〕

- ・通史編の「平成の舞鶴」について、歴史の中でも一番新しいところをどう編むか、どんな市史にしたいかを今回考えていきたい。今までの市史は誰も読まないみたいところで、率直にご意見をいただければと思う。
- ・舞鶴市との関わりは10年以上になるが、なかなか市史を読む機会もなく、縁遠いものになっているというのが正直なところである。一方で卒業論文の指導においては、その地域を取り上げる際に市史を活用しており、記録をしっかりと残しておくことはとても大事なことであると思う。

京丹後市史のビジュアルな視点、上半分を写真やイラストなどで、見て楽しめるような仕掛けというのは共感が得られると思う。よく言えば、動画みたいなものがQRコードで組み込めるかどうか、など議論した方がいいと思う。最近、総合計画でもQRコードを入れることもあり、そういった部分が平成から令和のところの情報にアレンジもできるのではないかなと思う。

章立てについては、綾部市さんのように市民憲章の項目に基づいて分けていくのもよいと感じた。市民憲章がないにしても、総合計画の柱があり、目次の参考にはなる。文字がどうしても多くなってしまいがちになり、読み物として読んでもらうためのアレンジというのは本当に難しいと思うが、総合計画の中で、概要版に力を入れて作ったところがある。例えば兵庫県丹波市の概要版は単なる要約ではなくて、子ども達がいわゆる総合的な学習の時間などに使ってもらえるようなメモができる欄を作って、社会の授業で書き込みながら使って

もらえる総合計画の概要版を作成した。もし余力があれば、この通史、引揚港編、他の分野も含めて舞鶴の子ども達にも何か関心を持ってもらえるような仕掛け、超ダイジェスト版というか、必ずしも紙でなくてもよく、児童生徒全員がタブレットを持っておりPDFを作成するなどの仕掛けについても議論する価値はあると思う。

- ・記録をしっかり残すことは前提として必要であること、仕掛けという言葉はすごく印象的で、動画や超ダイジェスト版のご提案もいただいた。おそらく通史を編むときにこれをまず念頭において編むと随分違うと思う。
- ・市史編さん委員会でも、今回市史の編さんをするときに資料が載せられないところは、デジタル化して広く多くの人に見てもらえるようにしていく話もあった。今回現代編を作るにあたってはビジュアル的にアピールでき、より多くの人に手に取ってもらえることはよい方向と感じた。また、その仕掛けとして児童生徒等にも使ってもらえる取組みを込めていくことも大いにあっていいと思った。

章立てについては、ある程度全国の自治体で共通しており、市の成り立ちだとか産業、文化などに分けてあったと思うが、綾部市さんの今回の目次はちょっと変わっていると正直思った。それが20年後30年後に参照され、あるいは舞鶴市民以外の方に見られたときに、手に取りやすいかという視点も一方では必要と感じた。

- ・綾部市の章立ては、確かに市史に慣れているものからするとチャレンジングな章立てになっている。それが市民の方にわかりやすいか、要は調べたいところが調べられるかなど、使いやすい市史を一番に念頭に置いて章立てを考えていくことや、20年後30年後に使ってもらおうときのことも考えたい。確かにその通りだという気がした。
- ・引揚港編はそれに特化して、過不足なく描くということだと思う。舞鶴は、戦前は軍港であり、戦後は引揚港であったということが非常に大きな位置づけになると思う。その後は自衛隊の基地となり、平成においても続いており、港町というか軍港都市であると思う。そういう港にまつわる歴史の中で、戦後の舞鶴が最後の引揚港になり、その引き揚げの歴史を継承するため、舞鶴で全国の集いが開かれていたことが重要な点になると思う。それから、昭和50年代以降は、第二次大戦にまつわる記憶が喚起されていく時代だろうと思う。全国の集いの大会の中で引揚記念館の設置が求められ、設置されていくという流れがある。引揚記念公園ができ、引揚記念館ができてくる。舞鶴市の特徴として、あるいは市民にとって身近な出来事として描く必要があるから、この引揚港編が特化して出てくるということだと思う。だから通史編にも、そういった流れというか位置づけみたいなものがわかるように入っている必要がある。しかし記憶の喚起は続かないもので、記憶は薄れていく。市の歴史、郷土の歴史として取り上げられてくるよいきっかけになったのが、ユネスコの記憶遺産登録だと思う。

今回は市民の方や年少者の方にも広く読んでいただきたいという話なので、従来の市史とはかなりコンセプトを変えていかないといけない。学術的な水準はもちろん必要だが、かなり絞り込んでいく必要があると思う。例えば1冊200ページで、上下2段組で下段だけに文字を入れていくということになると、執筆に際しては字数の制限となることを、章立ての前提として考えておかないとい

けない。お話にあったそれを補うQRコードみたいな考え方もある。

舞鶴市を担う子ども達に読んでもらい活用してもらおうということが大切で、学校現場の中でも位置づけてもらう必要がある。それが概要版になるんだろうと思う。大元として通史編とか引揚港編はあるが、この概要版が実は一番重要じゃないかと感じた。また、舞鶴市のPR誌でもあり、概要版が取っ掛けになって更に詳しく知りたい人が、通史編や引揚港編を読んでもらうという考え方もある。

- ・黒沢先生からは、概要版の大事さということもいただいて、特に将来の舞鶴市を背負う子どもに向けて、それから市のPRにもなるんだというのは確かにそうだと思った。概要版を念頭に置いた上での、もしくはすみ分ける形としての通史編を目指していかないといけないと感じた。それから1冊200ページというところで、内容を絞っていくという中で、すごく印象的だったのは、従来とはコンセプトを変えなければいけないということだった。どんなコンセプトにするのかは今後の課題だが、従来のあの分厚い形ではないものを模索していくというのが、現代部会というか、舞鶴市史全体の大きな課題であり、そういうチャレンジなことと思った。また、引揚港編とのすみ分けというか、重なり具合というところでは、引揚記念館や全国の集いなどが大きな役割を果たしてきた。それが市民全体としてどうだったのかということ、少し検証しないといけないというお話もあったと思う。その意味で、通史編の本体の方にも引き揚げに関する記述は必ず入るが、通史編と引揚港編の書く方向は一緒かもしれないけれど、書く内容やその視野のあり方は、少し変えていくようなことも今後考えられるという気がした。
- ・学校の先生方に市史の概要版みたいなもののニーズがあるのかどうか、あるいは例えばどのような参考資料が授業で使いたいかなど、その辺りのニーズをぜひ教育委員会の学校教育課を通してお尋ねしてほしい。とりわけ小、中学生かなと思う。授業で使ってもらえるかどうかという展望と、もし可能となれば、議論の焦点を絞っていけると思う。
- ・少なくとも概要版を作るときには現場の先生方の視点は非常に重要と考える。場合によっては、出席や委員に加わっていただくぐらいのことがあってもいいと思う。
- ・学校の先生に加わっていただけると心強い。こういう場で一緒に議論をして、現場で使っていただけるようなものを作り上げることは大事だと思う。
- ・学校現場との連携は、作成の段階からできる範囲でかもしれないが、すごく大事だと私も思う。小中の地域学習などを念頭に置きつつ、学校現場のニーズの把握が必要と思う。使ってもらえる市史という、今日の何か基本コンセプトみたいものが出てきたと思う。事務局の方もすぐにお答えいただかなくても結構だが、今日、先生方からいただいたご意見をしっかりと受けていただき、今後何か素案などを作っていくときの参考にしてほしい。
- 事務局／先生方のご意見をお伺いする中で、やはり先生方の現場の意見というのは重要であり、連携しながら進めていきたいと思う。また、本市には、市民憲章がなく、お話にあったように総合計画の活用というのは一つの考え方かと思う。
- ・事務局で作った舞鶴市文化財保存活用地域計画というのがある。舞鶴市の歴史や文化を6本の柱立てにしたもので、この6本の柱を伸ばしていこう、磨いて

いこうというのが保存活用計画になる。概要版の話かもしれないが、参考になると思う。

(4)執筆者等の推薦について

- ・通史編の方はもう少しメンバーを募る必要がある。今もし念頭にある方があればここで挙げてほしい。
- ・私の大学の教員で、唯一、文化を専門にしている京丹後市の職員さんであった小山さんという方がいる。教育委員会時代に京丹後のみならず京都北部の様々な歴史を研究されており、ぜひ声をかけたいと思う。
- ・私もよく存じており、適任かと思う。同じ大学なので杉岡先生の方から内諾をいただければありがたい。特に文化財の関係などをご担当いただけるといいと思う。
- ・立命館大学に山本理佳さんという方がいる。私と同じ地理学ではあるが、軍港都市史研究の景観編を作ったときに参画いただいた。山本さん自体、舞鶴はやっていないので、引き受けてもらえるかわからないが、皆さんがよければ打診はしてみようと思う。
- ・良いと思う。
- ・現代史の先生がもしおられれば、特に丹後や京都北部に造詣が深い方があればぜひお声掛けいただければと思う。事務局の方でも探していただいている。あくまでも候補で、アイディアの段階でよいので事務局にお伝えいただきたい。

(5)その他①執筆要項について②報酬等取扱基準について③その他

〔時間の都合により、説明、質疑を省略した。〕

5 今後の予定等

- 事務局／年度内にあと1回、現代部会の会議を持ちたい。日程は後日改めて調整させていただきたい。また、必要に応じて委員の推薦などについてメールのやり取りをさせていただくほか、本日の議事録をまとめて、メール送信させていただくのでご確認いただきたい。

以上